

(2) 湯沢市・院内地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・市役所担当者へのヒアリング

日時 2020年7月27日(月) 10:00-12:00

場所 湯沢市役所

対象 協働事業推進課4名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時 2020年7月27日(月) 13:00-17:00

場所 院内地区センターおよび院内地区各所

対象 院内地域づくり協議会会長1名、事務局1名、NPO法人おがちふるさと学校理事長1名

■ワークショップ(1回目)

日時 2020年9月13日(日) 14:00-16:00

場所 院内地区センター

参加 36名

■ワークショップ(2回目)

日時 2020年11月1日(日) 14:00-16:00

場所 院内地区センター

参加 24名

■湯沢市報告会³

日時 2021年3月7日(日) 13:30-15:30

場所 雄勝文化会館オービオン

参加 15名

³ 当初は2021年1月24日に予定されていたが新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため開催を延期し3月7日にオンラインでの開催を執り行った。

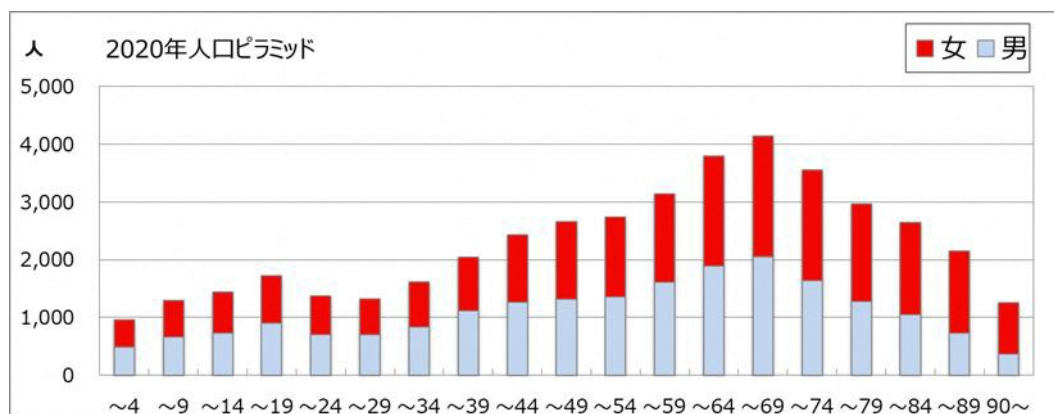
② 人口分析・推計（湯沢市全体）

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いて湯沢市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

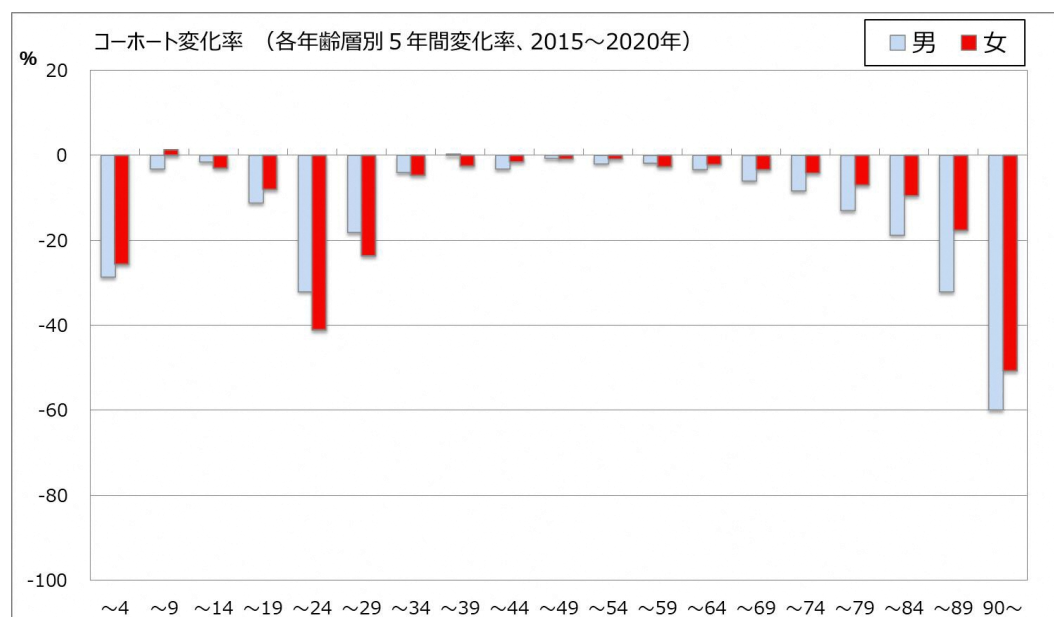
湯沢市全体の人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



60代後半が最多の4,131人、次いで60代前半が3,789人となっている。最も少ないのは0～4歳の950人で最多の60代後半の3割に満たない人数となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



これは2015年から2020年の5年間の各年代における人口増減を変化率で示したものである。例えばこの図で示される「～19」は「15～19歳」の10代後半のことで、数値はこ

の年代の2015年時点の「10～14歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（0～4歳のみ5年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

湯沢市では5～9歳女性、30代前半男性に若干の増加が見られる。しかし、それ以外のすべての年代で減少しており、20代の減少（流出）率が極めて高い。その後の各年代でこの減少を取り戻すことは出来ていない。

2) 現状推移シナリオ

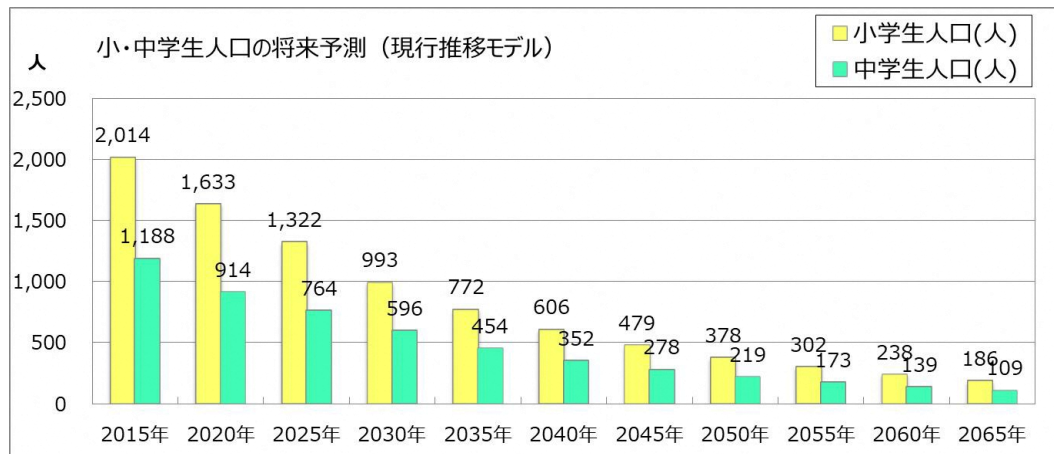
過去5年間（2015～2020年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



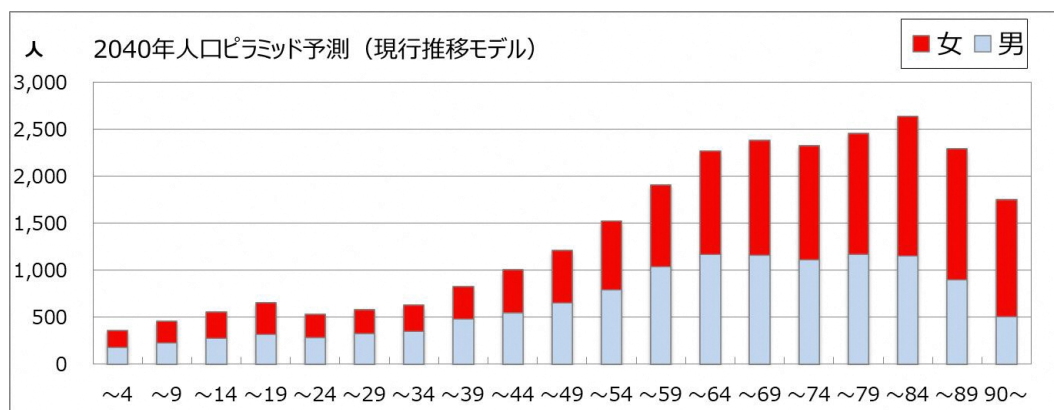
4,700人以上の減少があった2015～2020年の結果を反映した推計であるため、著しい人口減少を示している。2020年比で2040年には60.9%、さらに2065年には24.6%まで減少すると推計されている。若年層を中心とした流出もあるため高齢化率も20年後には52.6%まで上昇すると推計された。

ii. 小・中学生数予測



過去5年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2020年比で2040年には37.6%、2065年には11.6%となり、人口総数以上の減少率と推計されている。

iii. 2040年（20年後）の年代別人口構成



最も多い年代は80代前半の2,630人、最も少ない年代は0～4歳の357人と予測される。20代前半～30代前半の人口が少ない上に、女性割合が低いことから20年後のさらにその先の人口構成は一層、厳しいものと予測される。

3) 人口安定化シナリオ

人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせて検討する。人口の安定化には出生率と10代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。

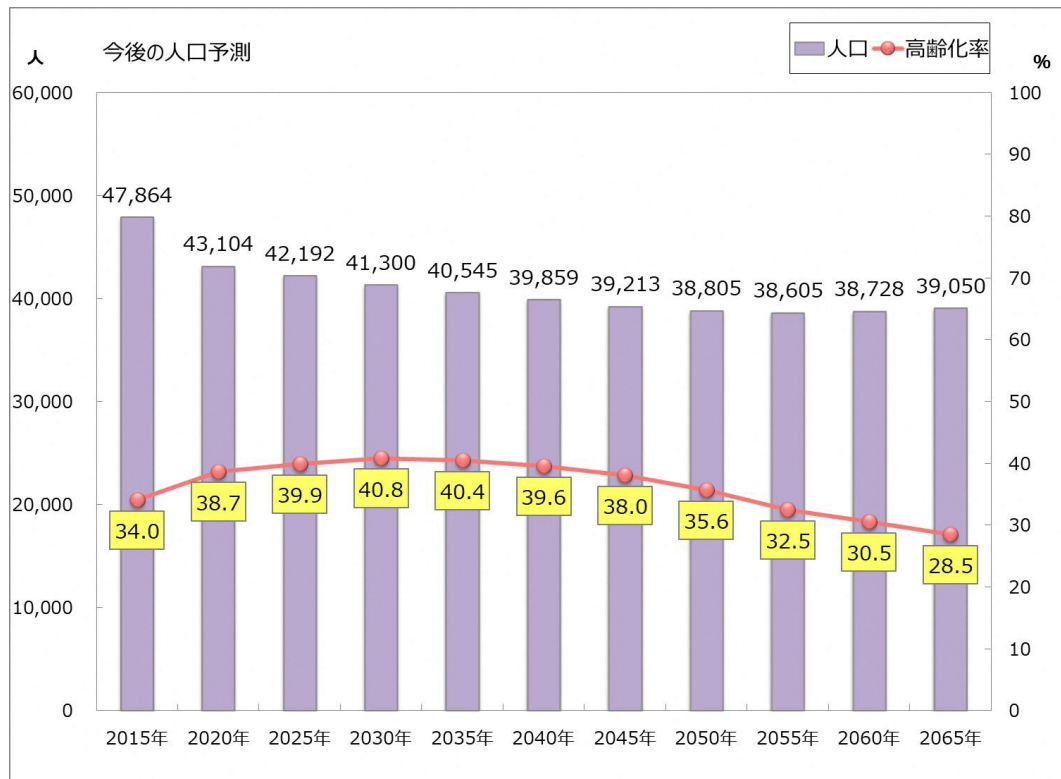
今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された湯沢市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各74.2組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年		
2020～2025年	1.52		現状	設定値	各世代（世帯）	74.2
2025～2030年	1.63	男性	32	16	合計世帯数（世帯）	222.6
2030～2035年	1.73	女性	41	21	合計人数（人）	519.4
2035～2040年	1.83				2020年人口比（％）	1.20
2040～2045年	1.94					
2045年以降	2.07					

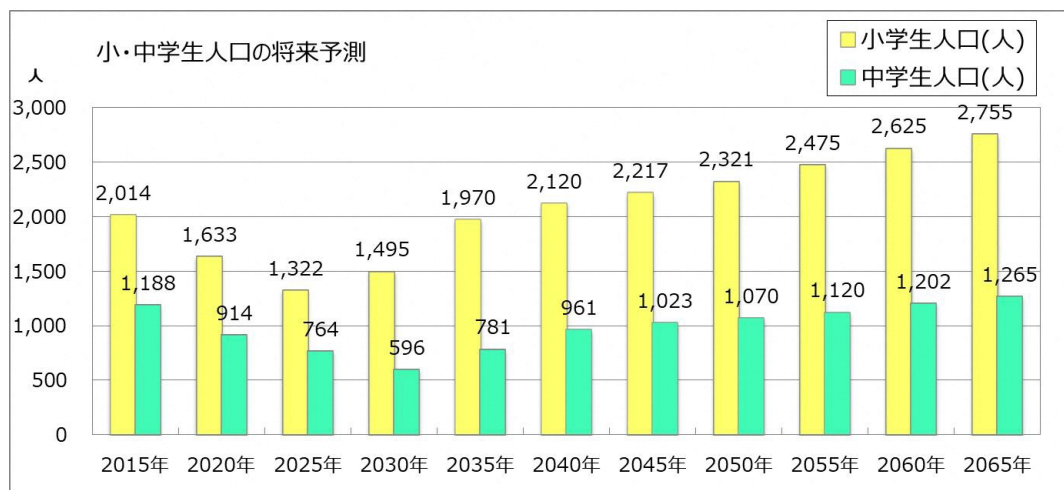
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



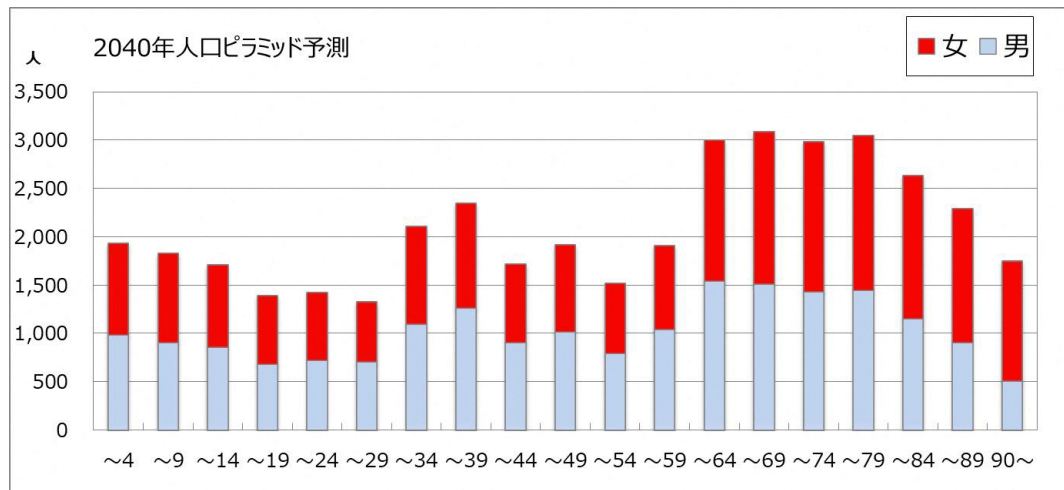
2020年人口の1.20%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2030年頃からは増加に転じる。2035年には現在の小・中学生数を200名ほど上回るまで回復すると推計された。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



60代から70代にかけてピークがある。加えて30代とその子ども世代である10歳未満の年代層にもピークが確認出来る。若い世代の人口が着実に維持・増加に向かうものと思われる。

③ 人口分析・推計（湯沢市内全地区）

次に湯沢市内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2015～2020年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けした図で表示する。

次頁に示した2015～2020年湯沢市地区別コーホート変化率の表からは人口動態は地区別に異なっており、それぞれの地区に適した独自の対策が必要であることが伺える。

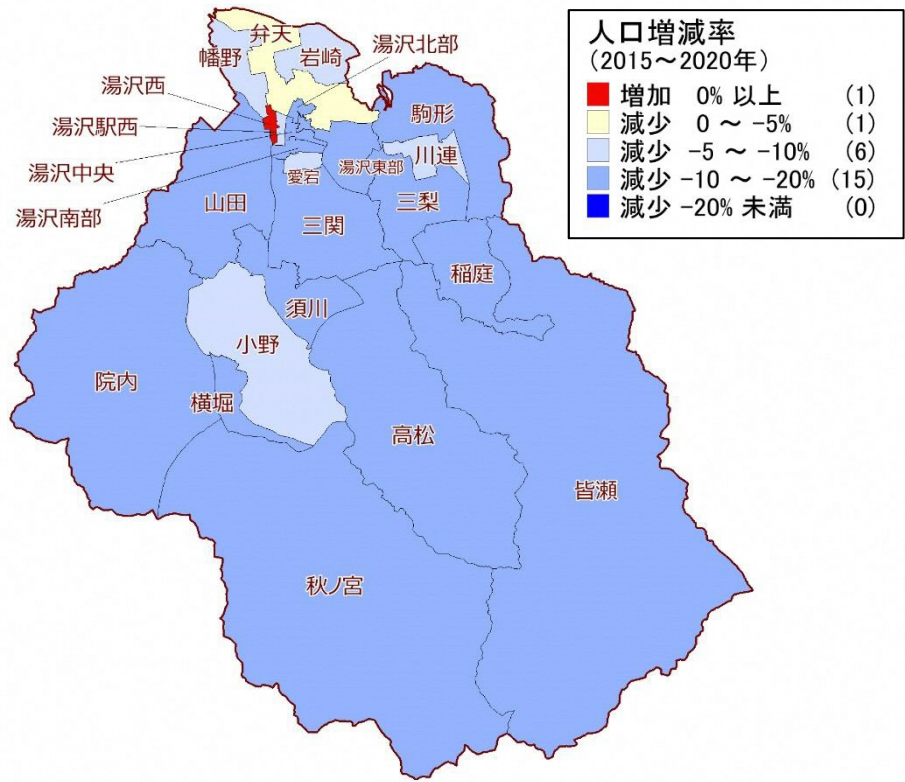
その次に図示した分析項目は人口増減率（2015～2020年）、高齢化率（2020年）、社会増減率（2015～2020年）、4歳以下増減率（2015～2020年）、小学生増減率（2015～2020年）、30代女性コーホート増減率（2015～2020年）、人口増減率予測（2020～2050年）、2050年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020年人口比%）である。この分析・推計結果は市内全地区が表示された地図上に色分けして表示する。結果の評価については良い場合の暖色（赤色）から悪い場合の寒色（青色）まで段階的に表示している。

■2015～2020 年湯沢市地区別コーホート変化率

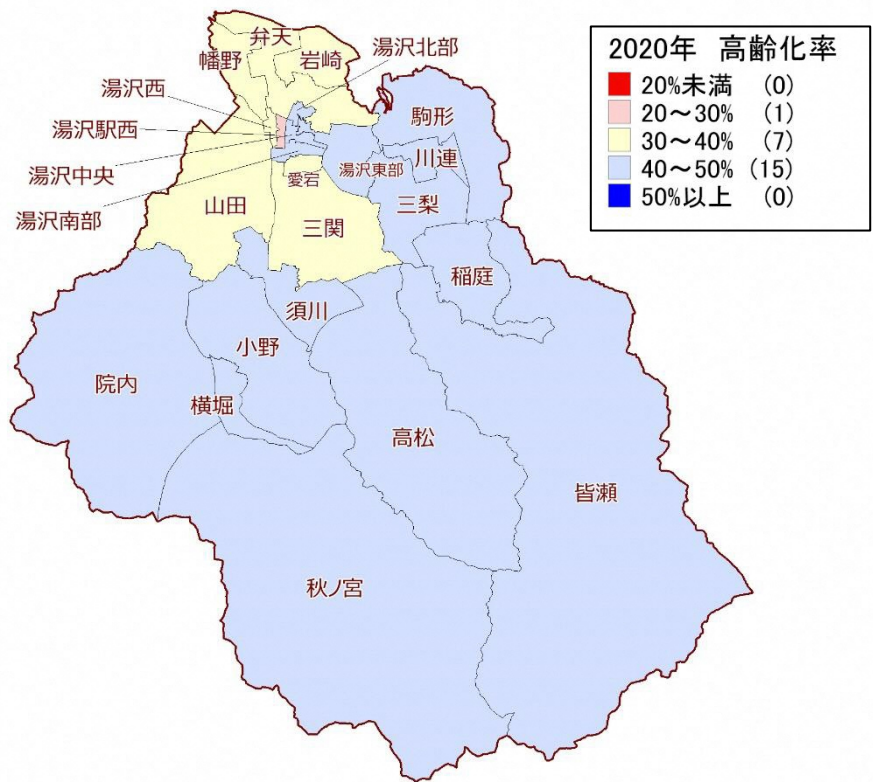
地区名	性別	0～4 歳	5～9 歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳
愛宕	男	0.54	0.92	0.90	0.93	0.93	0.68	0.82	0.94	0.87	0.94	1.03	0.94	1.02	0.97	0.97	0.87
	女	0.68	0.88	0.78	0.91	0.71	0.70	1.26	0.96	0.90	0.96	1.01	0.99	0.96	1.01	0.93	0.89
湯沢駅西	男	0.68	0.84	1.10	0.94	0.73	0.90	1.02	1.11	0.97	0.99	0.96	0.97	1.04	0.94	0.87	0.81
	女	0.96	0.98	0.98	0.97	0.69	0.96	0.93	0.85	1.02	0.95	1.04	1.06	0.94	0.94	0.99	0.94
湯沢西	男	0.91	1.00	0.91	1.02	0.64	1.59	1.27	1.10	1.03	0.96	1.00	1.06	0.98	1.06	0.89	0.98
	女	0.73	0.98	0.91	1.08	0.72	0.97	1.21	1.09	1.07	0.96	1.11	1.05	1.07	1.02	1.03	1.03
湯沢中央	男	1.00	1.05	0.83	1.00	0.79	0.86	1.40	0.83	0.94	1.00	1.02	1.12	0.90	0.95	1.04	0.82
	女	0.93	0.87	1.57	0.82	0.71	1.06	0.81	0.90	1.04	0.97	1.03	0.98	0.95	0.96	0.93	0.91
湯沢東部	男	0.36	0.95	1.06	0.94	0.92	0.63	0.95	1.04	0.80	1.13	0.94	0.98	1.03	0.91	0.87	0.86
	女	2.14	1.14	1.00	1.04	0.64	0.76	1.60	1.00	0.87	1.00	1.07	1.00	0.99	1.05	0.98	0.90
湯沢南部	男	0.71	0.83	1.00	0.86	0.65	0.75	0.79	1.07	0.96	0.93	0.92	0.82	0.99	0.95	1.04	0.92
	女	0.43	0.80	0.76	0.88	0.65	0.91	0.81	0.78	0.95	1.06	1.01	0.95	0.99	0.95	0.95	0.90
湯沢北部	男	0.53	1.06	1.04	1.03	0.74	0.73	0.91	1.08	1.02	1.09	1.07	0.97	0.94	0.86	0.95	0.79
	女	0.55	0.90	1.16	0.88	0.70	0.54	0.76	1.03	0.91	1.23	0.95	0.98	0.94	0.90	0.96	0.96
山田	男	0.90	0.84	0.97	0.89	0.61	0.90	0.88	0.90	0.94	0.97	0.97	1.00	0.98	0.92	0.91	0.93
	女	0.64	0.90	0.89	0.84	0.59	0.78	0.81	0.97	0.88	0.98	0.94	0.96	0.96	0.97	0.99	0.95
三閑	男	0.70	0.67	0.86	0.85	0.68	0.88	0.82	1.04	1.03	0.95	0.98	0.96	0.95	0.91	0.89	0.82
	女	0.62	1.12	0.96	0.91	0.58	0.87	0.74	0.89	1.09	0.95	0.94	0.94	0.97	0.92	0.97	0.86
弁天	男	0.85	1.21	1.01	0.85	0.63	1.02	1.05	1.14	1.02	1.07	1.01	0.98	0.99	0.92	0.94	0.86
	女	0.75	1.24	1.06	0.93	0.64	0.86	1.06	1.19	1.01	1.09	0.98	0.97	0.99	0.96	0.96	0.93
岩崎	男	0.53	0.97	0.94	0.85	0.57	0.81	1.23	1.20	1.03	1.08	1.07	1.02	0.93	0.90	0.88	0.89
	女	0.62	0.92	1.00	1.00	0.59	0.73	0.86	1.10	1.17	1.02	0.97	0.94	1.00	0.89	0.88	0.96
幡野	男	0.85	0.79	1.03	0.83	0.56	0.97	1.00	1.00	0.87	0.94	0.94	1.03	0.92	0.98	0.93	0.94
	女	0.71	0.92	0.88	0.86	0.51	0.64	1.16	1.00	0.94	0.94	1.02	0.87	0.97	1.07	0.95	0.93
須川	男	0.58	1.00	1.07	0.91	0.80	0.63	1.08	0.91	0.86	0.96	0.93	0.89	1.00	0.93	0.96	0.83
	女	0.56	0.89	0.95	1.00	0.42	0.50	0.58	1.12	1.05	1.00	0.95	0.97	1.00	0.96	0.98	0.91
高松	男	0.63	1.00	1.00	0.71	0.60	0.68	0.82	0.80	0.84	0.91	0.92	0.97	0.90	0.93	0.97	0.92
	女	0.80	1.80	0.89	0.88	0.76	0.80	0.88	1.20	0.75	0.95	1.03	0.94	1.03	1.00	0.87	0.88
稲庭	男	0.57	1.04	0.96	0.79	0.56	0.79	0.71	0.97	0.94	0.92	0.92	0.96	0.95	0.97	0.87	0.84
	女	0.48	0.81	1.00	0.92	0.53	0.79	0.88	1.00	0.90	1.03	0.96	0.94	0.97	0.99	0.92	0.92
三梨	男	0.43	0.96	1.04	0.82	0.64	0.56	1.08	0.89	1.00	1.00	1.02	1.00	0.96	0.97	0.91	0.81
	女	1.07	1.07	0.89	0.96	0.43	0.67	1.10	0.89	0.92	0.90	1.00	0.94	0.96	0.95	0.95	0.96
川連	男	0.87	1.13	0.95	0.90	0.67	0.89	0.93	1.11	1.04	1.02	0.98	0.99	0.95	0.99	0.94	0.87
	女	0.73	1.21	0.98	0.94	0.56	0.62	0.89	1.04	1.08	0.96	0.96	0.99	1.02	0.98	0.97	0.94
駒形	男	0.65	0.96	1.00	0.79	0.61	0.63	0.82	1.09	1.00	1.04	0.97	0.94	0.97	0.94	0.89	0.81
	女	0.74	1.17	1.10	0.86	0.62	0.69	0.97	1.00	0.98	0.98	0.95	0.96	0.99	0.96	0.92	0.95
院内	男	1.36	1.00	0.93	0.96	0.74	0.68	0.97	0.93	1.10	1.08	0.98	1.00	0.94	0.92	0.89	0.80
	女	0.75	1.08	1.07	0.87	0.50	0.61	0.94	0.71	1.03	1.03	0.97	1.05	0.97	0.94	0.96	0.94
横堀	男	0.43	1.00	1.13	0.91	0.73	0.80	0.94	1.00	0.94	0.95	1.00	0.97	1.00	0.99	0.86	0.88
	女	0.90	1.30	0.88	0.86	0.42	0.68	1.06	0.95	1.12	0.91	1.08	1.02	1.02	0.95	0.93	0.92
秋ノ宮	男	0.86	1.14	1.00	0.81	0.77	0.61	0.83	0.90	0.91	1.05	0.91	0.96	0.92	0.94	0.88	0.87
	女	1.00	0.71	1.00	0.91	0.48	1.06	1.07	0.82	0.80	1.09	0.94	0.95	0.96	0.93	0.99	0.93
小野	男	0.84	1.16	1.04	0.91	0.70	0.87	1.19	1.00	1.03	1.00	1.00	1.03	0.94	0.92	0.94	0.93
	女	1.00	1.11	1.05	0.96	0.48	0.71	0.97	1.05	1.01	0.94	0.98	0.98	0.99	0.99	0.99	0.91
皆瀬	男	0.41	0.82	0.96	0.89	0.62	0.69	0.92	0.76	0.96	0.84	0.99	1.03	0.98	0.88	0.90	0.84
	女	0.81	1.00	0.97	0.89	0.49	0.56	0.97	0.82	1.05	0.95	0.94	0.97	0.94	0.95	0.90	0.94

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

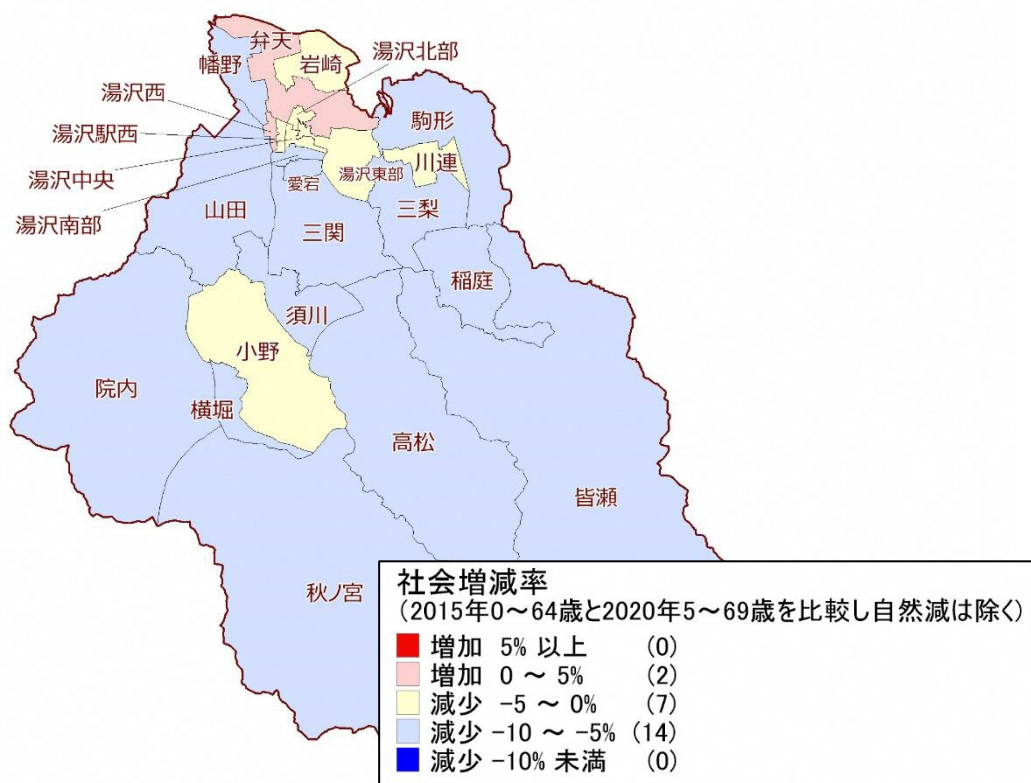
■人口増減率（2015～2020 年）



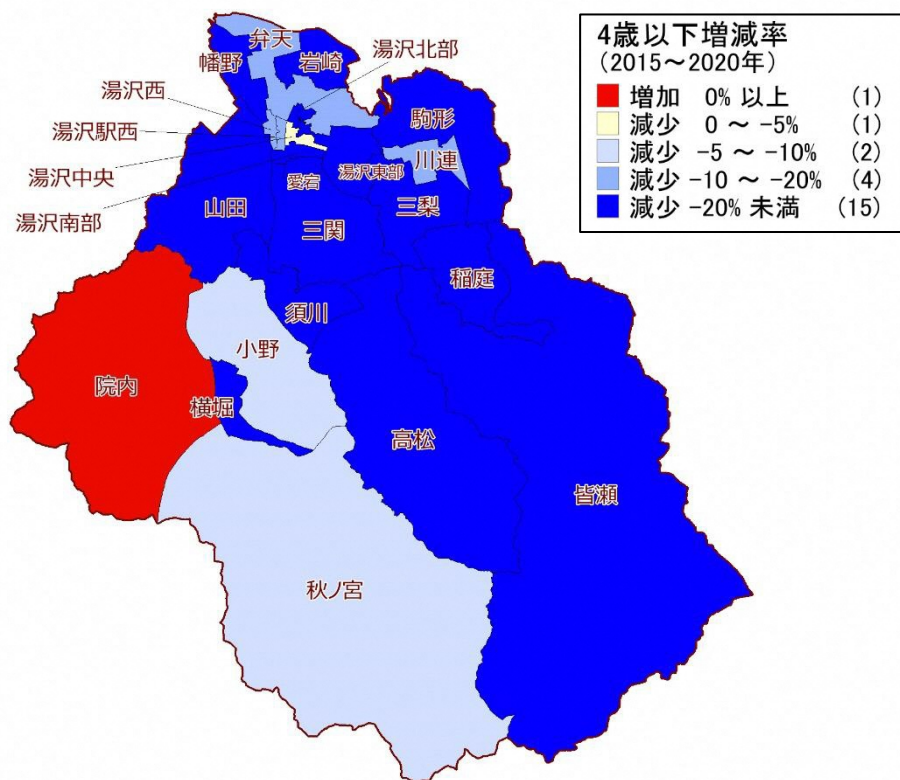
■高齢化率（2020 年）



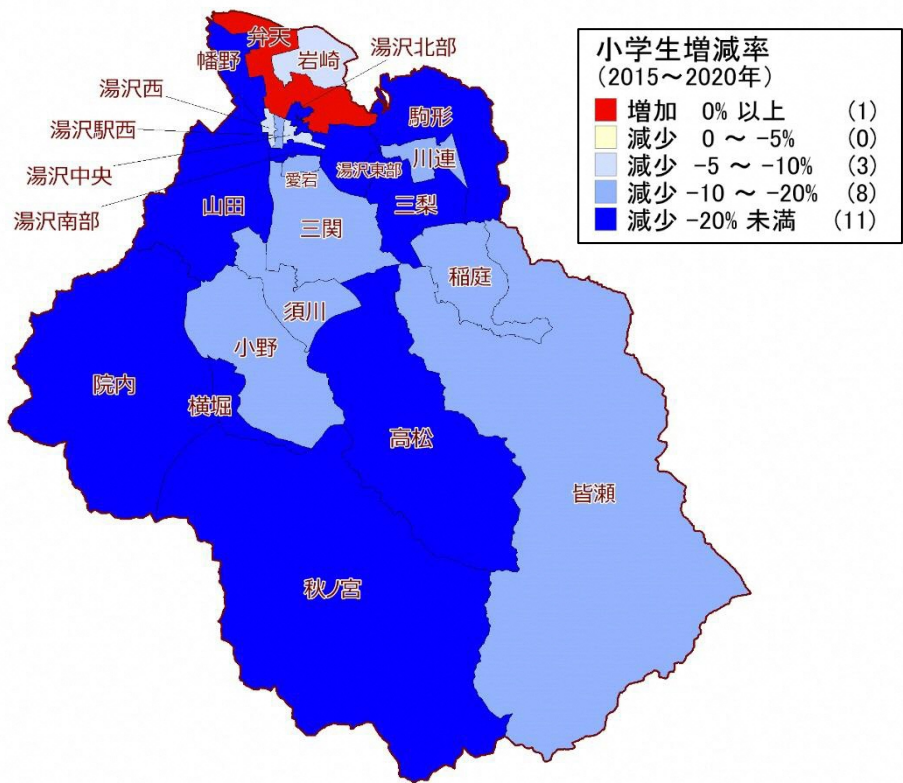
■社会増減率（2015～2020 年）



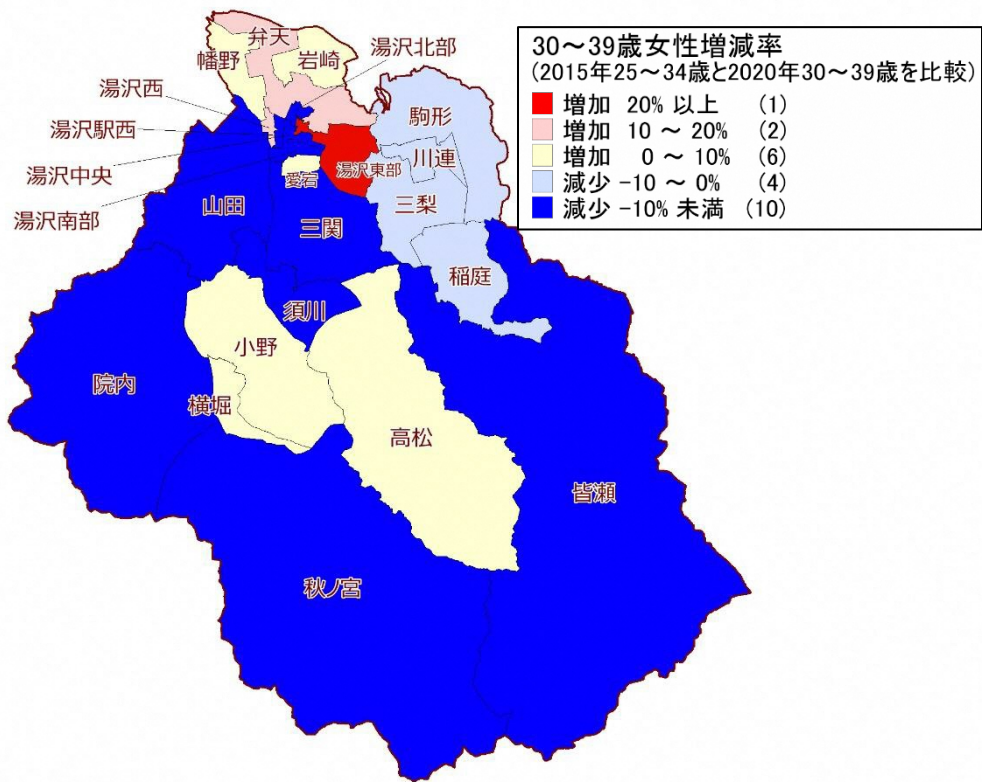
■4 歳以下増減率（2015～2020 年）



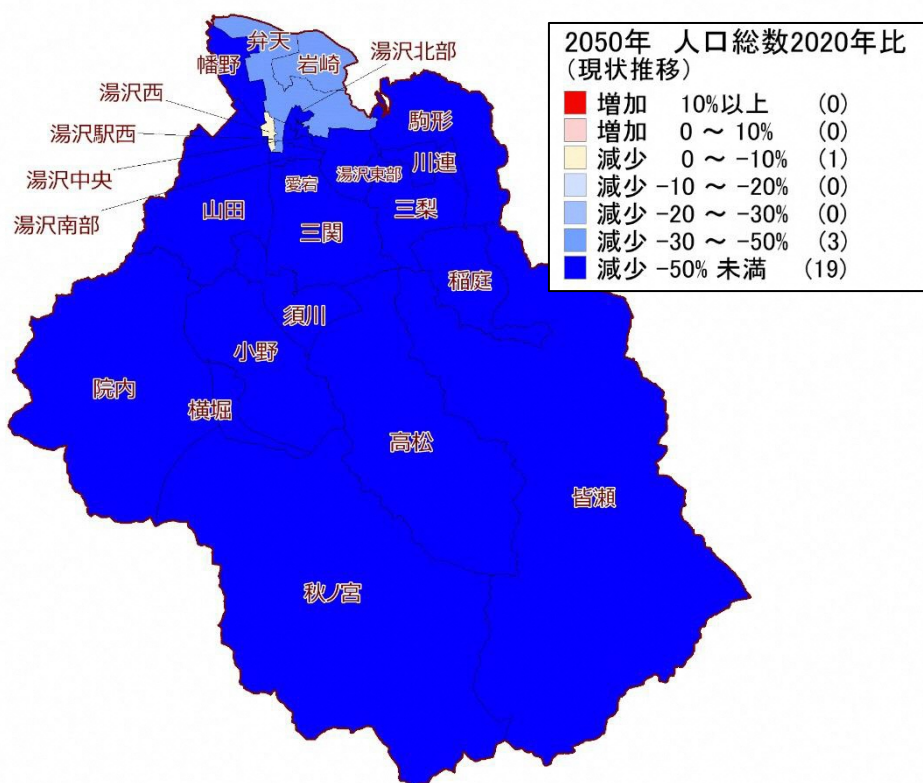
■小学生増減率（2015～2020 年）



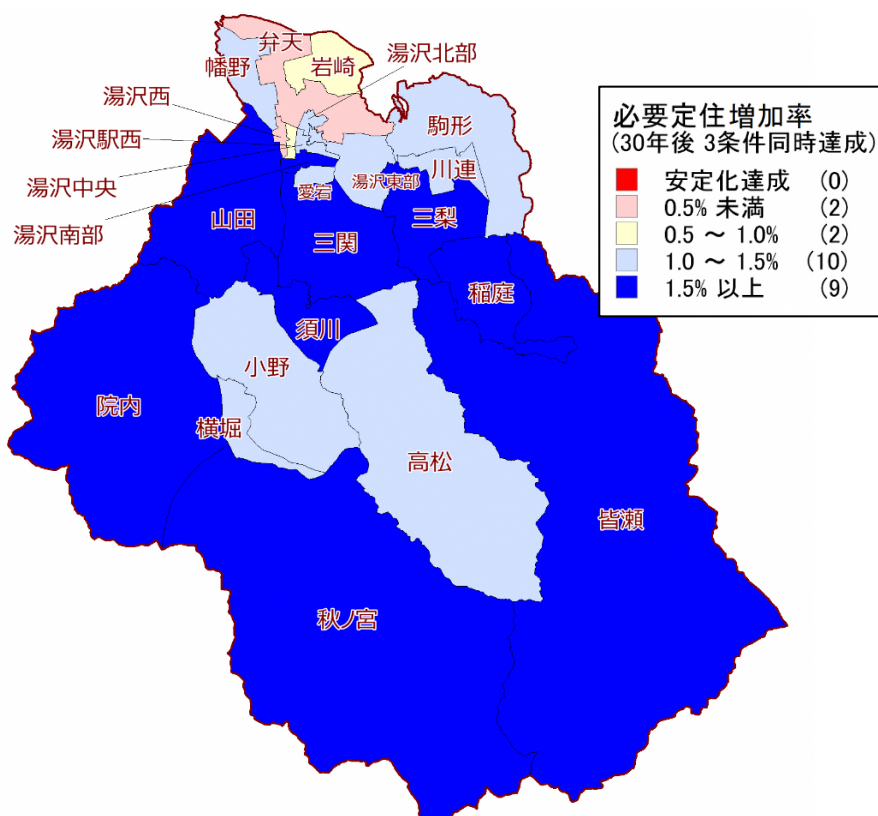
■30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）



■人口増減率予測（2020～2050 年）



■2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比％）



④ モデル地区（湯沢市院内地区）の概要

湯沢市は 23 地区から構成されており、その内院内地区をモデル地区として本事業を実施した。院内地区は秋田県と山形県の県境に位置し関所が置かれた他、江戸時代から藩直営の銀山があり、人口は 1 万 5 千人を超えるほど栄えた地域である。また、江戸時代から昭和までおよそ 100 年にわたり院内石を生産した採石場跡を今でも見る事が出来る。

現在は 19 町内会から構成され、人口 1,401 人、586 世帯、高齢化率 49.6%（2020 年 12 月当時）の湯沢市の南端に位置する山間の地区である。地区内の小学校は廃校となっている。

院内地区の特徴は、地域住民による主体的な地域活動グループがいくつか立ち上がり、活発に活動していることである。ひとつは「NPO 法人おがちふるさと学校」で 2012 年に NPO 法人化し、院内駅前の「ふるさと交流館」を拠点として地域交流促進活動の他、院内銀山跡環境整備事業や地域外との交流にも力を入れている。また、20 代から 40 代あたりの若者が中心となった「いんない未来塾」が近年精力的に活動を行っており、桜の植樹や地域内外からの参加のある交流イベントの開催等の他、2021 年 1 月には高齢者や空き家の除排雪、通学路の安全確保を目的とした共助組織「院内雪滅隊」を結成し、活動をスタートさせている。それぞれの団体は、お互いの活動や総会に顔を出す等連携関係も構築されており、「院内地域づくり協議会」を中心に世代ごとに地域に関わる複数の団体がそれぞれ活動をしている様子は、地域力の高さと歴史の厚さを感じさせる地域である。

その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した次頁の地元関係図にまとめたので参照いただきたい。



旧院内尋常高等小学校
現在は院内地区センターとして
活用されている



奥羽本線と院内の集落



小沢の石切り場

写真出典：院内地域づくり協議会が作成した「2020 年ジオの里院内カレンダー」より

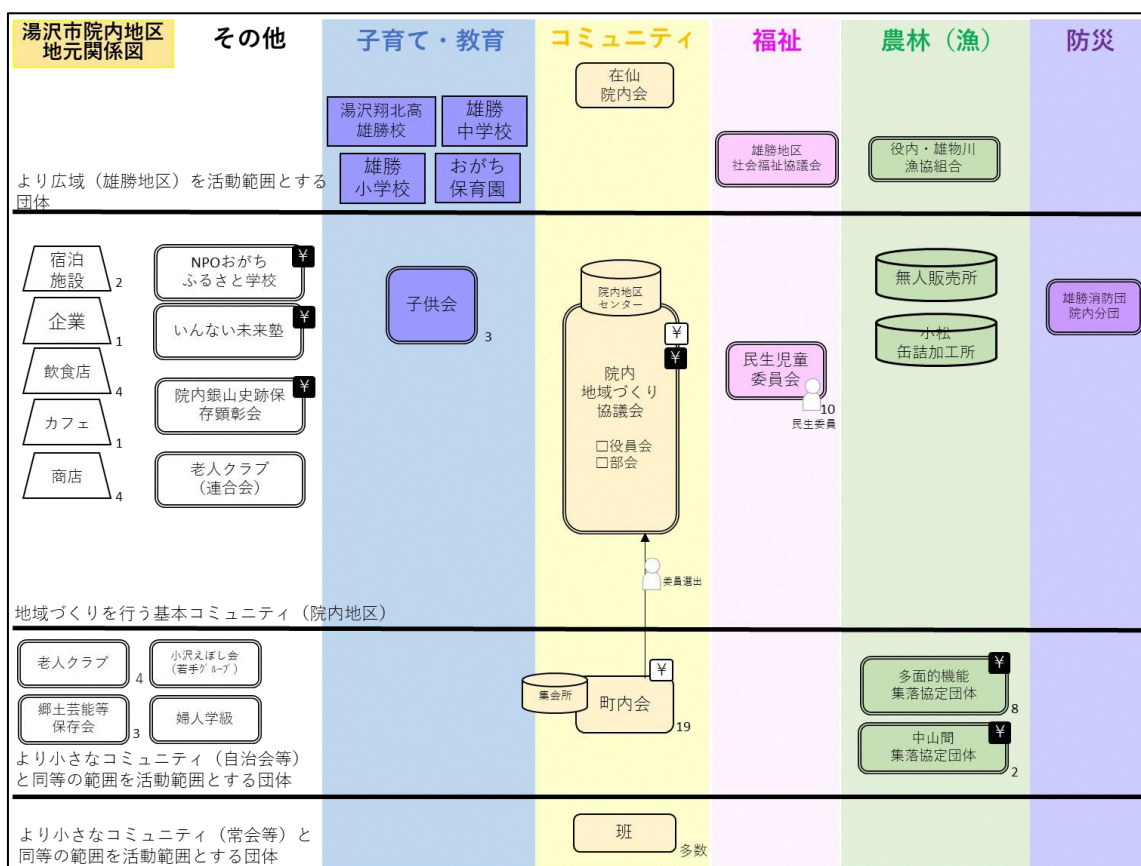


図 院内地区の地元関係図

注：□の¥は地域住民から集めたお金、■の¥は行政からの交付金・補助金を表現。

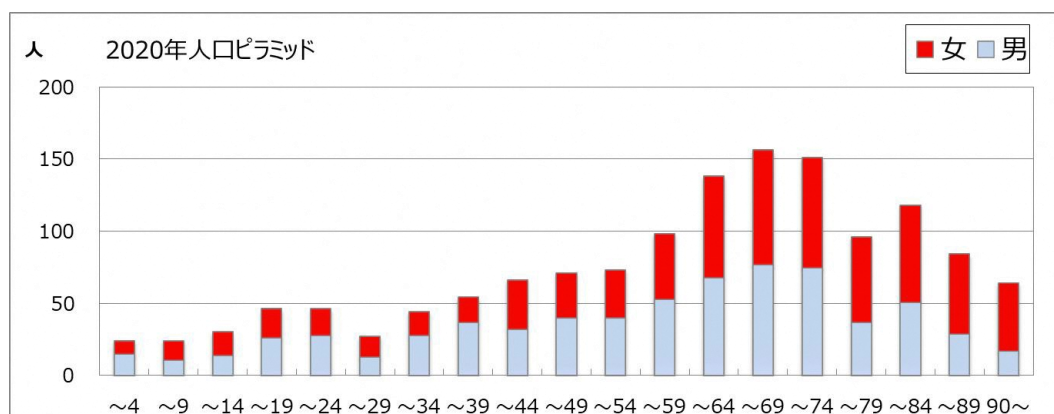
⑤ 人口分析・推計（湯沢市院内地区）

湯沢市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を院内地区においても行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

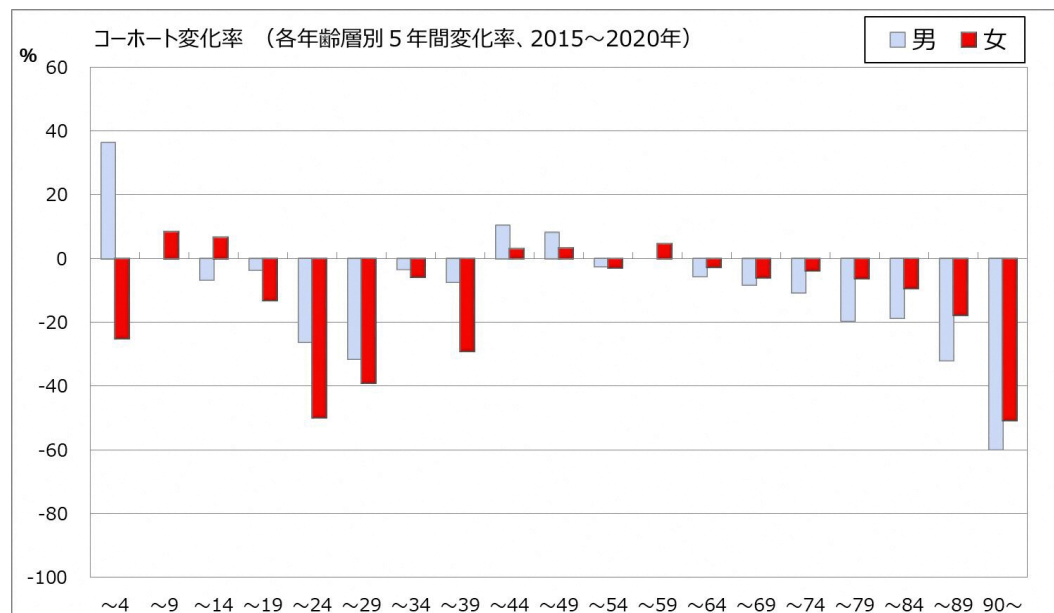
院内地区における人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



最多は 60 代後半の 156 人、最少は 0～4 歳と 5～9 歳の 24 人となっている。10 代後半、20 代前半、30 代の女性の割合が著しく少ない。また、院内地区では理由は判明しなかったが 20 代後半が前後の年代と比較しても一層少なくなっていることが確認出来る。

ii. 年代別コーホート変化率

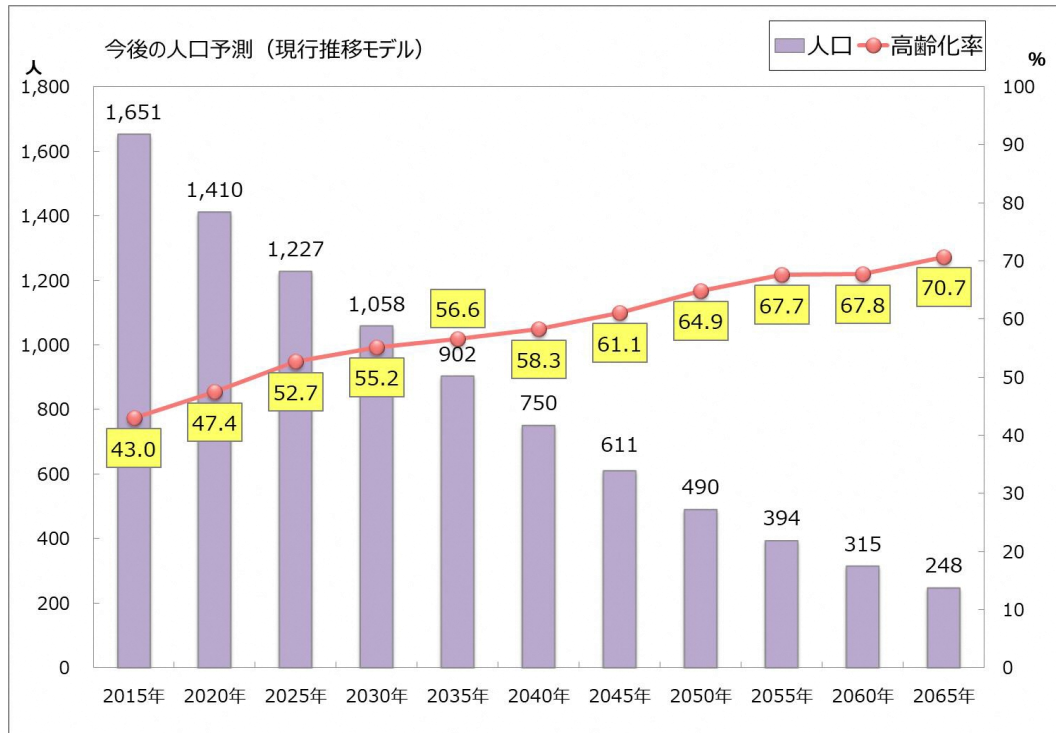


0～4 歳男性、5～9 歳女性、10 代前半女性、40 代男女、50 代後半女性と比較的多くの年代で増加が見られる。しかし、20 代男女、30 代後半女性の減少（流出）割合が大きく、その分を取り戻すには至っていない。

2) 現状推移シナリオ

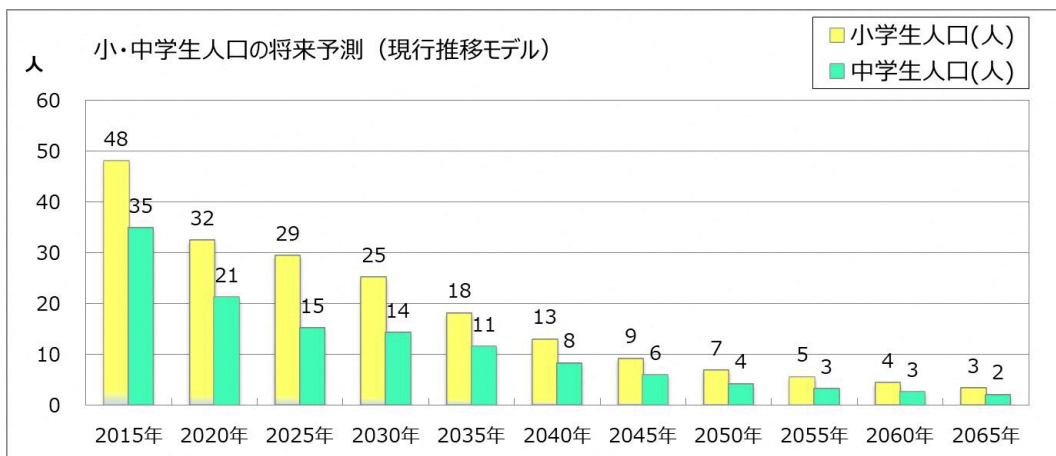
院内地区における過去5年間（2015～2020年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

i. 人口と高齢化率予測



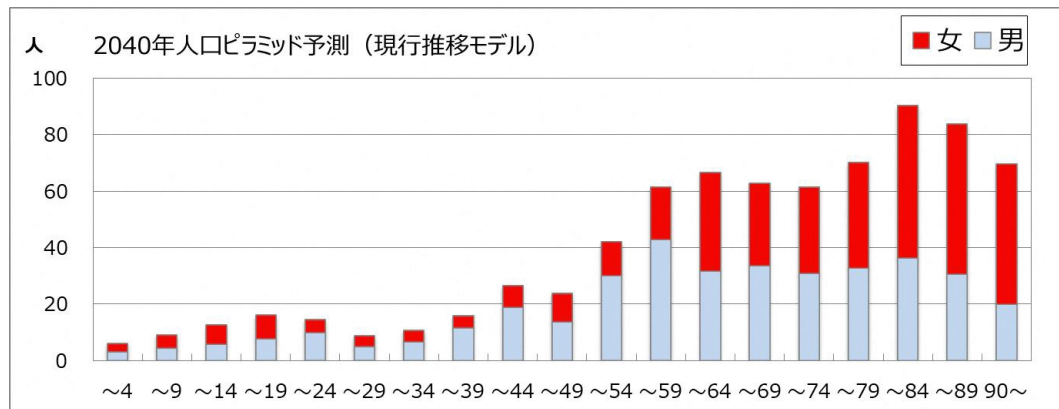
湯沢市全体と比較しても人口の減少、高齢化率の高まりは急速に進むものと思われる。人口は2020年比で2040年には53.2%、2065年には17.6%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数も著しい減少となり、2020年比で2040年には39.6%、2065年には9.4%まで減少し、その実数は5人と推計されている。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



ピークが80代前半に推移し87人となっている。若い世代の人数を見る限り20年後よりさらにその先は一層、厳しい人口構成になると推測される。

3) 人口安定化シナリオ

湯沢市全体での検討と同様に院内地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせる。

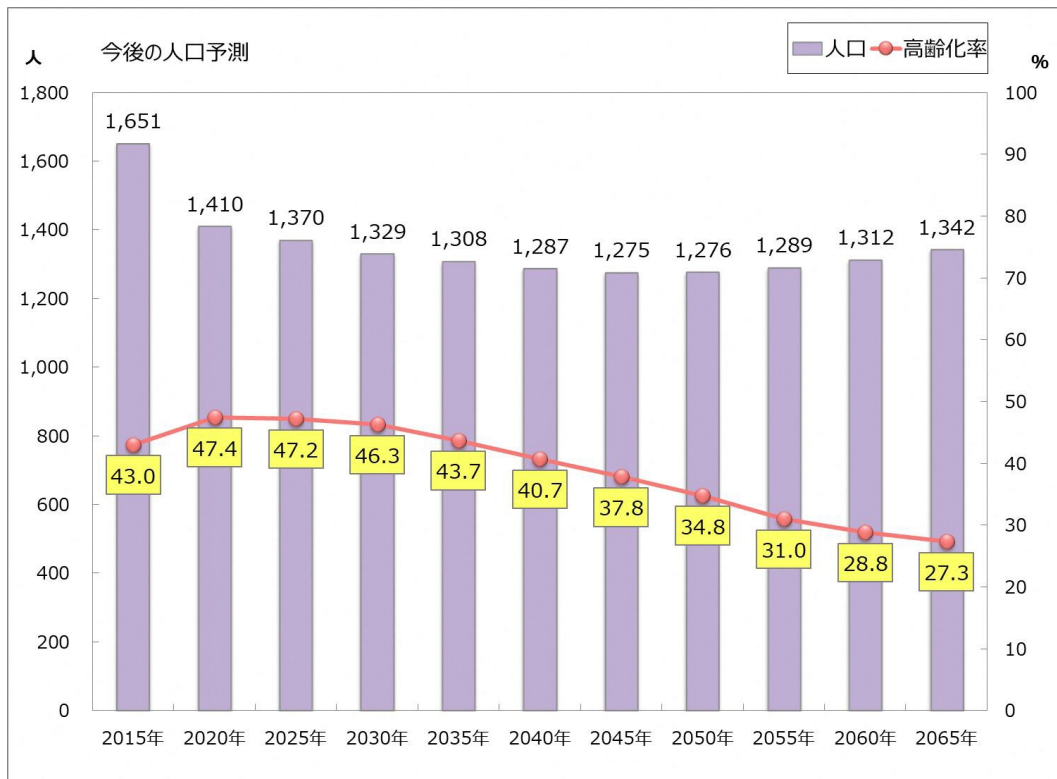
今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された湯沢市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各3.4組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年		
2020～2025年	1.52		現状	設定値	各世代（世帯）	3.4
2025～2030年	1.63	男性	26	13	合計世帯数（世帯）	10.2
2030～2035年	1.73	女性	50	25	合計人数（人）	23.8
2035～2040年	1.83				2020年人口比（％）	1.69
2040～2045年	1.94					
2045年以降	2.07					

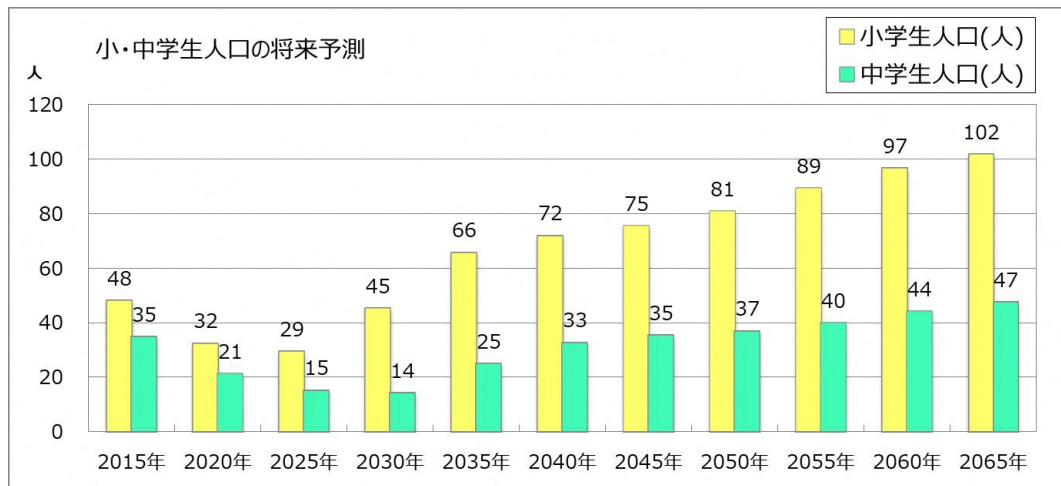
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。

i. 人口と高齢化予測



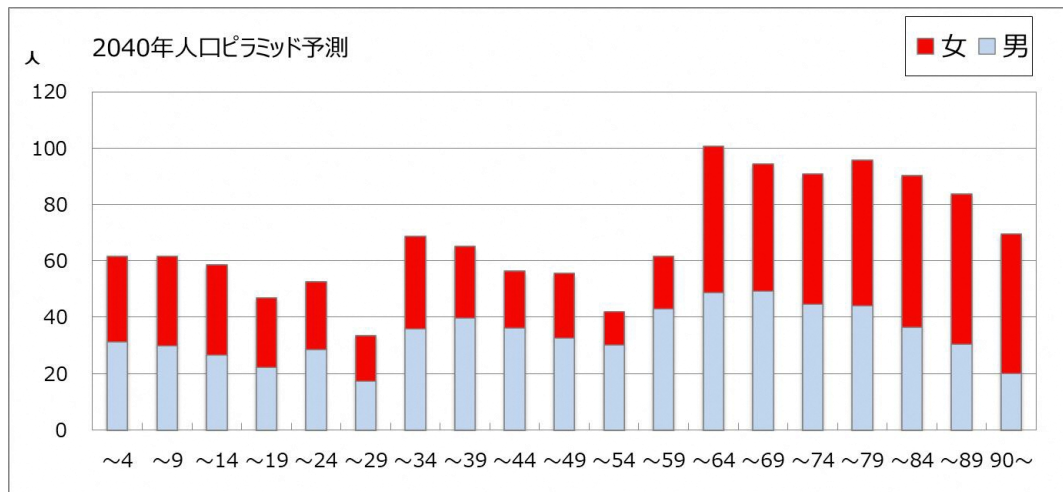
人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



子育て夫婦や若者夫婦の継続的な定住が達成されれば小・中学生数は、2030年頃からは増加に転じ2035年には現在の小・中学生数の合計を上回る程度に回復すると推計される。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



40 代～50 代の女性割合は依然として低いものの、次代の 20 代以下の年代では女性割合も回復し、徐々に安定的な人口構成になっていくものと予測される。

⑥ ワークショップ（１回目）（人口安定化ワークショップ）

１）目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

２）開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年9月13日（日）14：00－16：00
 - ・場所 院内地区センター
 - ・参加者 地域住民（36名）、湯沢市職員、秋田県職員、NPO法人秋田県南NPOセンター理事等
- A～Gの7班に市職員等が数名配置され、各班7名前後の構成

■実施・作業内容

- ・NPO法人いわて地域づくり支援センターの若菜氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・人口動態の増減要因分析として自らの地区の2015年から2020年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
- ・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数の検討

■当日の様子



３）人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して院内地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表 院内地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4		
5～9		
10～14		
15～19		大学進学のため 関東地方へ就職のため
20～24	横手に勤務するために戻ってきた 結婚後子どもを連れて	
25～29	女性は意外に戻ってきて結婚している	結婚して県内移住（女性） 賃貸物件が少ないので引っ越す
30～34	新型コロナの影響で東京から 離婚後子どもを連れて 親の介護のため 家業を継ぐため 異動に伴い戻ってきた	市内や県外へマイホームを建てて
35～39	都会に疲れて	結婚して出ていく女性が多い 別の場所に自宅を新築して出ていく
40～44	家の事情で戻ってきた（女性） 結婚で女性が転入	
45～49	他地区から転入（子どもの通学のため）	
50～54		
55～59		
60～64	夫婦で戻ってくる	夫婦で息子のところに出ていく
65～	定年退職後、親の介護のため子供連れで戻ってくる	
全体		戻りたくても仕事がない あっても低収入 住環境 院内に酒の飲める場所がない

この表から、20代に進学や就職で地区外に出ていく他に、30代には「地区外に自宅を新築する」等の理由で地区外への流出が起きている。40代になると「家の事情（介護等）」をきっかけに戻ってくる人が増えるが、20代や30代の流出を取り戻すほどの人数ではないため全体として人口減少が進んでいる。

さらに、60代から「子どものところへ身を寄せる」という流出が次第に増えており、人口減少に拍車をかけている。これらの状況はコーホート分析の結果からも同様の結果をみることが出来る。

4）人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代の目標誘致数を検討いただいた。その際、現実的に達成したい

現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（下表参照）。なお10代後半流出率削減目標については現在の男性26%、女性50%を両者とも25%に設定した。合計特殊出生率については現在の1.48から2045年までに1.80へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、この流出率削減目標と合計特殊出生率は「⑤—3）人口安定化シナリオ」で設定した数値よりも緩やかな数値目標とした。

表 院内地区における検討された人口安定化シナリオ

班		A	B	C	D	E	F	G	単位
項目									
誘致世帯数・人数/年 目標									
20代前半夫婦	現実版	0.5	4	0.5	0.5	0.5	0	—	組
	理想版	1	5	1	1	1	2	0.5	
30代前半子連れ夫婦	現実版	1	2	0.5	0.5	0.5	0.2	—	
	理想版	3	5	1	1.5	1	2	0.5	
60代前半夫婦	現実版	1	2	1	1	1	1	—	
	理想版	2	5	1	2	1	2	2	
合計人数	現実版	6	18	3.5	3.5	3.5	2.6	—	人
	理想版	15	35	7	10.5	7	14	6.5	

各班でシミュレーションした結果、様々な組み合わせが検討された。誘致世帯数と人数は、全体としてはどのカテゴリーも1～2組とする班が多いが、A班では20代夫婦が1組に対して30代夫婦3組、60代夫婦を2組とする等、20代夫婦より上のカテゴリーではより戻ってくる組数は多くする傾向がみられた。その理由として、20代夫婦は仕事を優先することや地区内に住宅があまりないことが挙げられた。それに対して、30代夫婦は子を両親に見てもらえるというメリットが期待出来るのではないかという理由が挙げられた。

例えばD班の検討結果は次に示した通りである。20代夫婦を1組、30代夫婦を1.5組、60代夫婦を2組ずつ迎え入れることで、人口減少は止まらないが、小・中学生数は2020年以降横ばいかむしろ微増すると予測されたことで選択された。

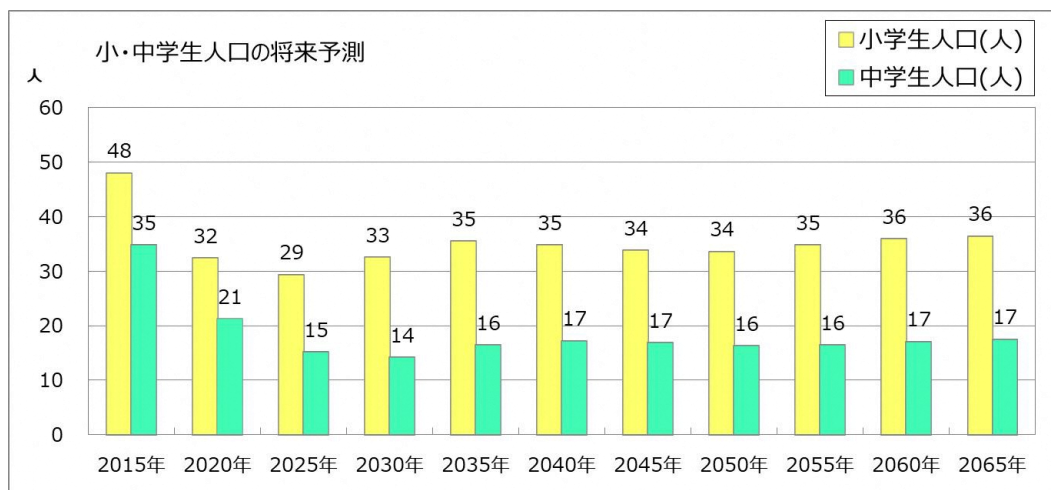
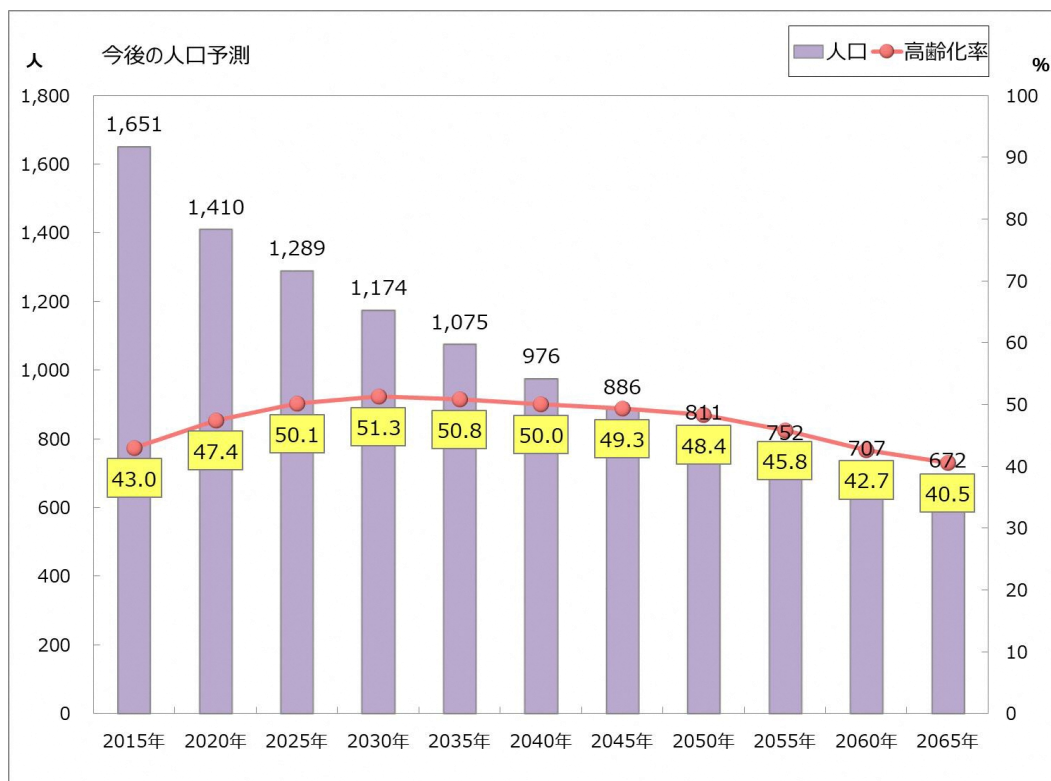


図 院内地区 D 班理想版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5) まとめ

本ワークショップでは地域活動が活発に行われている地域においても、それらの活動が何を目指しているのか、人口の増減にどのように関わるのかを今一度、考える機会として最新情報を提供し認識、共有いただいた。実施した結果、シミュレーションよりも人口動態の分析で転出、転入の理由を考える中で地域における良い点と課題点を見つめ直す機会になっていた。シミュレーションでは人口減少を止めることよりも、14歳未満の年代の人口がこれ以上減らないことを重視し、より実現可能な目標が選択された。

⑦ ワークショップ（２回目）（地元天気図ワークショップ）

1) 目的

ワークショップ（１回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年11月1日（日）14：00－16：00
 - ・場所 院内地区センター
 - ・参加者 地域住民（24名）、湯沢市職員、秋田県職員、NPO法人秋田県南NPOセンター理事等
- A～Fの6班に市職員等が数名配置され、各班6名前後の構成

■実施・作業内容

- ・NPO法人いわて地域づくり支援センターの若菜氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・地元天気図ワークショップとして現状と定住促進に向けた地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマ 30代女性が定住するとしたら）
前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

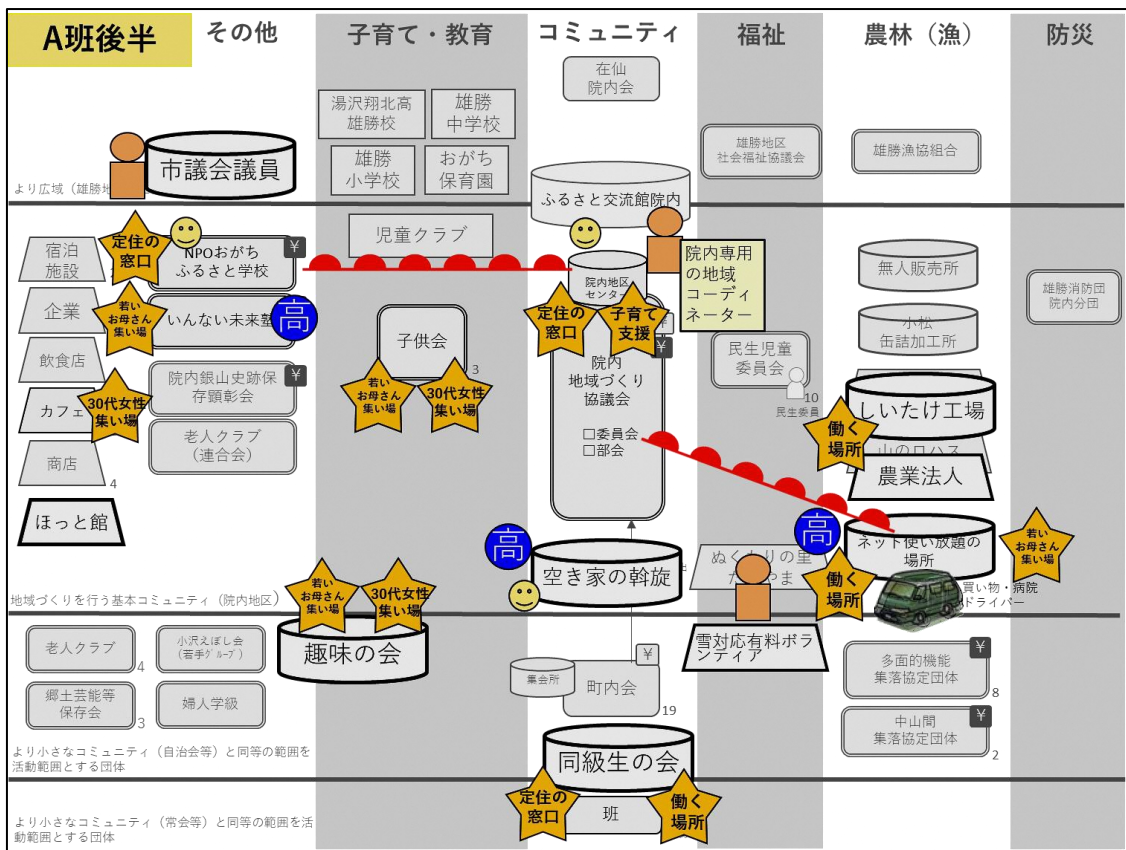
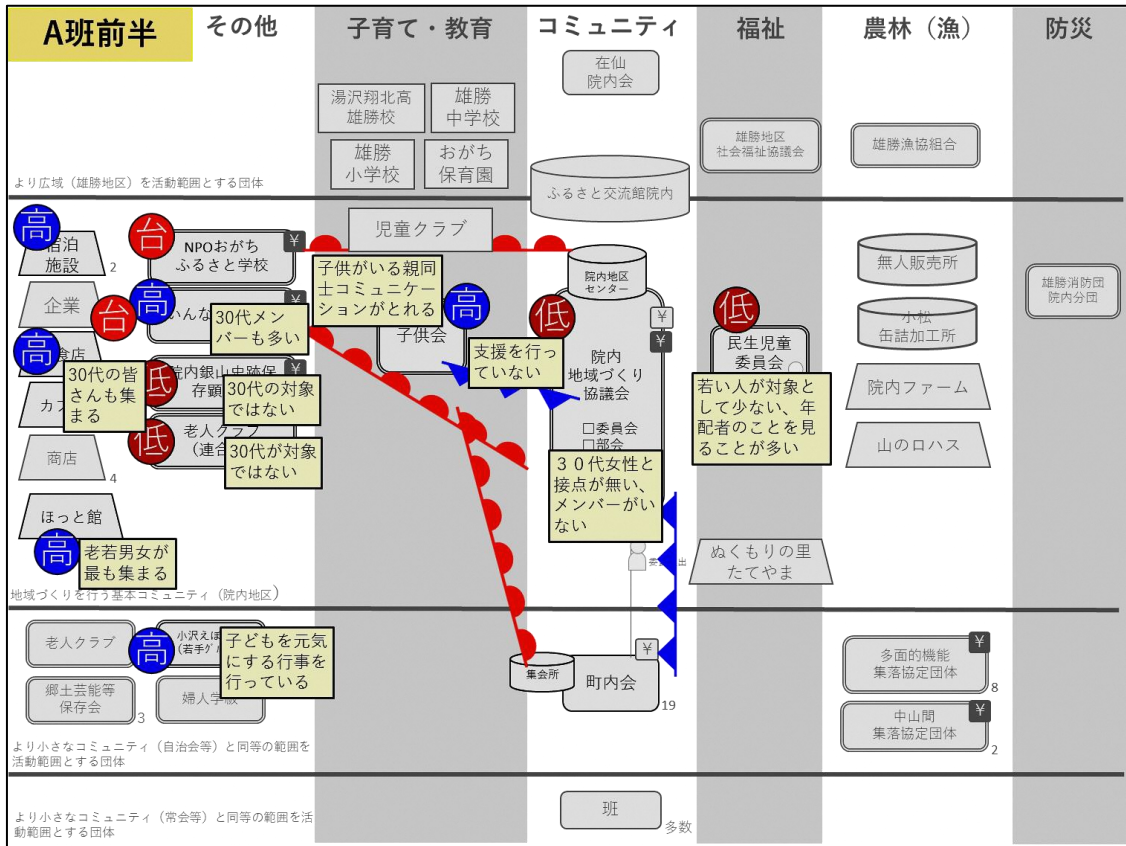
■当日の様子



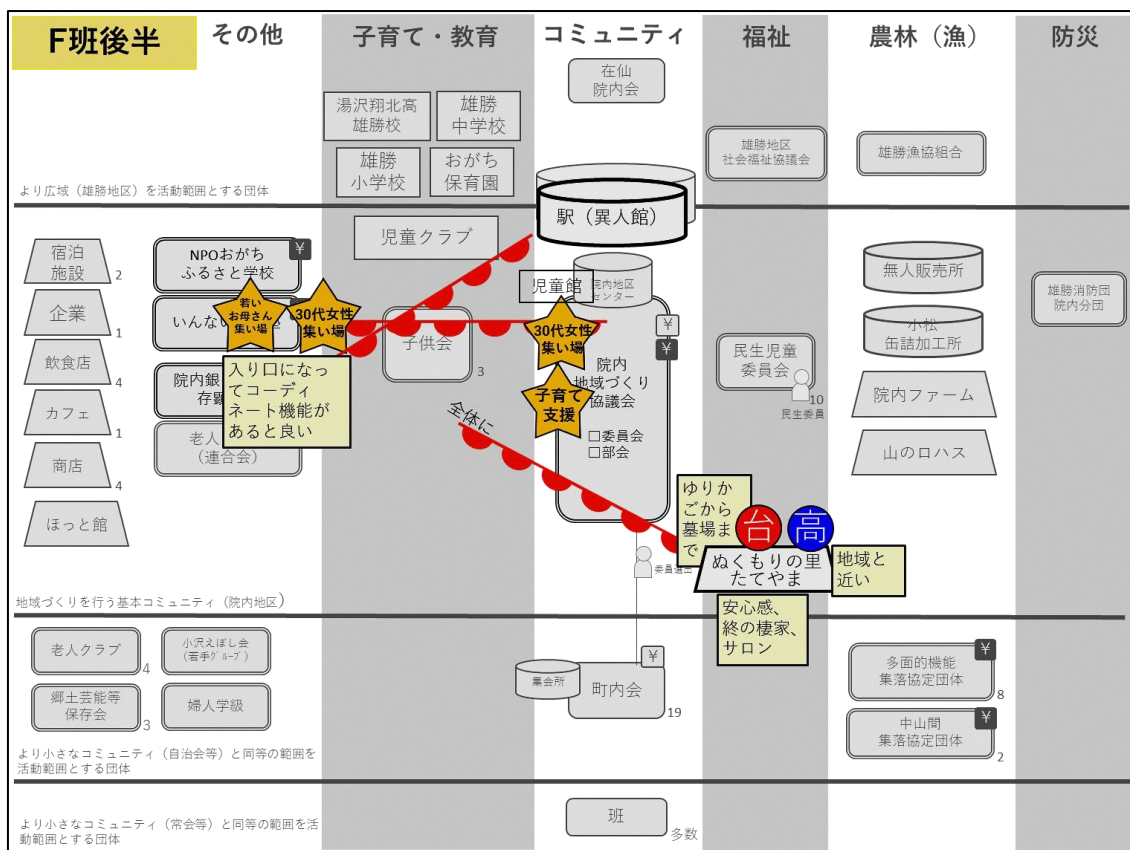
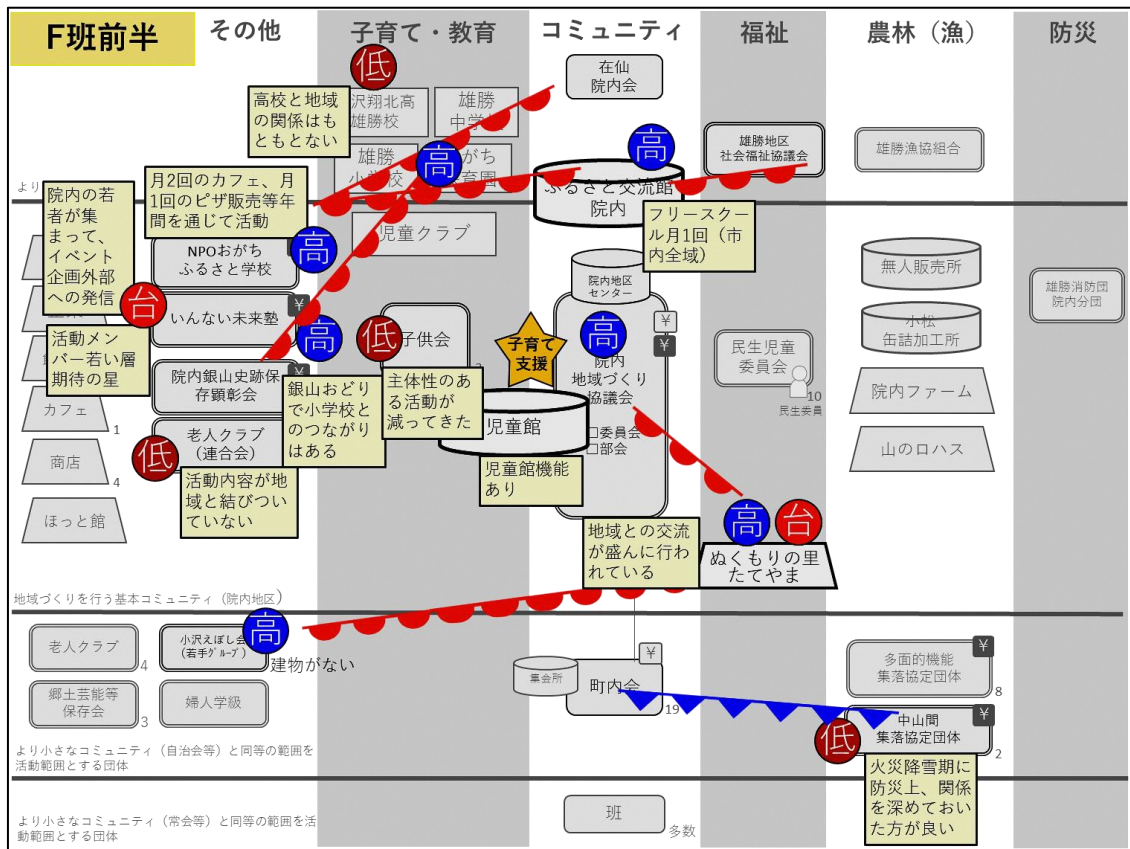
3) 検討結果

院内地区では6班構成で作業が行われた。その中で例として男性がメンバーの大半だったA班と、女性が大半だったF班の検討結果を表示する（「④モデル地区（湯沢市院内地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

A班の地元天気図（上半・下半）



F班の地元天気図（上半・下半）



4) まとめ

地元天気図を提示したA班、F班について概略を記載したい。

A班は60代以上が多いが、40代の若者も入った混合男性グループで、前半の検討では「いんない未来塾」に代表されるように若者の活動や若い親世代が参加する子供会、宿泊施設や飲食店等の企業の活発さが評価されている一方で、「院内地域づくり協議会」や老人クラブ等既存の各種団体には若い人がいないことや若者との連携が薄いという理由で低い評価となっている。

後半では移住や定住に向けた対応として、若いお母さんや30代の女性が集まる場として、趣味の会や同級生の会を創設していくことやネットが使い放題出来るカフェ等を整備する等の夢が積極的に出された。また、院内は地形的にも山に囲まれた狭小な集落のため住宅事情が良くないことから、より積極的に空き家を斡旋するような機関が必要であるという意見が出された。

一方、F班は女性のグループで、前半の検討では子供会は主体性のある活動が減ってきており、力としては弱まっていることが指摘された。むしろ、児童館機能を備えた院内地区センターは人々がつながる良い機能を備えていると評価しており、男性から見た視点との大きな相違が伺える結果となった。また、A班と同様に「いんない未来塾」は台風の勢いがあると活動の中心的な役割を担うことが期待されているが、福祉施設である「ぬくもりの里たてやま」についても地域との交流が活発に図られていることが評価された。

後半では、「いんない未来塾」や「NPO法人おがちふるさと学校」等の団体に加えて活発に活動している「小沢えぼし会（若手グループ）」も一体となって活動を大きくし、飲食店やカフェ、商店も加わり、祭りの参加者がそのまま地域に滞在して飲食したり、宿泊するようにつなげることで地域活動から営利法人化するアイデアが出され、地域運営への期待が強く意識された。それによって「院内地域づくり協議会」や地区センターがより良い人材発掘につながり、町内会の強化にもつなげていくのではないかという意見が出された。

他の班も含め、院内での目指す方向性として、若者が活発に活動している団体を窓口として若いお母さん達が地域活動に参加していくきっかけとなることで、地域づくり協議会が地域を包括する組織としてより機能していくことがどの班でも期待されていることが分かった。また、温泉施設であるほっと館や院内ファーム、山のロハス等、院内には個性的な産業資源や企業団体があることから、これらとも連携、強化していくことで、若者にとっても安定した職場になると良いという意見が多く出された。

また、「院内まちづくり基金」をつくってはどうかという意見や宿泊施設を地域コミュニティで運営してはどうかといった先駆的なアイデアも多く出された。

院内はまさに今、若者の力が形となって見えつつあり、この勢いを広げ、地域を再生していこうという気概が感じられる。単にそれぞれの動きを連携するだけでなく、基金というアイデアも出されたように一人一人、団体ごとがそれぞれでも活動しやすいような仕組みをつくっていくことが必要な段階にある。

⑧ 湯沢市報告会の開催概要

1) 目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と院内地区での取組の成果を基に、手法や手応えを湯沢市全体に発信・共有する目的で行われた⁴。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2021 年 3 月 7 日（日）13：30－15：30
- ・場所 雄勝文化会館オービオン
- ・参加 15 名（この内オンライン参加者 1 名）

■次第

第一部 講演 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏
2020 年代は田園回帰の時代

～湯沢市の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部 パネルディスカッション

コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

（1）院内地区からの取組報告

報告者 NPO 法人おがちふるさと学校 諸越 幹子氏

いんない未来塾 代表 佐藤 拓弥氏

（2）パネルディスカッション

テーマ 1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

テーマ 2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

テーマ 3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみで
つないでこんな仕組みをつくりたい

ま と め 今後に向けての抱負を漢字一文字で

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

所長 藤山 浩氏

NPO 法人おがちふるさと学校 諸越 幹子氏

いんない未来塾 代表 佐藤 拓弥氏

湯沢市まちづくりコーディネーター 高橋 昭尚氏

湯沢市協働事業推進課 高橋 和彦氏

コメンテーター NPO 法人いわて地域づくり支援センター

常務理事 若菜 千穂氏

⁴ 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、予定されていた 1 月 24 日の開催を延期し 3 月 7 日に参加者数を制限した上で藤山氏と若菜氏はリモートで参加いただくオンライン報告会を開催した。本報告会では Zoom ビデオコミュニケーションズより提供される web 会議サービス Zoom を使用した。

■当日の様子



3) 内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長藤山浩氏より本事業に関連して「2020年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、4名の方々と業務を担当した若菜氏に参加いただきテーマに対してキーワード方式で、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

佐藤氏キーワード 「魅力を理解する」

院内の人はとても親切で、住民の皆さんは様々にコミュニケーションを取ってくれる。子どもの頃はこの素晴らしさを分かっていなかった。

高橋(和)氏キーワード 「生活の基盤」

移住して生活拠点を構えとなると人生設計と収入の見通しが必要。豪雪等を上回る楽しみや喜びがあり、それを住民と分かち合い悩みを解決出来るような地域の仕組みづくりが課題。

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

諸越氏キーワード 「来るもの拒まず」

様々な世代の団体が数多く手広く活動しているので、どんな世代も受け入れていくことが出来るはずだ。来た後で楽しいところだと分かってもらえる地域だ。

高橋(昭)氏キーワード 「自分たちが楽しむ！！」

定住を検討されている皆さまに対して、地区に住んでいる自分たちがまずは楽しんで暮らしていることを示していきたい。

テーマ3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみでつないでこんな仕組みをつくりたい

若菜氏キーワード 「院内人と院外人のちがいを楽しむ」

院内の人の感性と外の人との感性の違いを参考にして欲しい。域外の人々の考えを知ることによって誇りに思っていたことがより強固になる場合もあるし、違いも分かる。この違いを知ること自体も大切だ。

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

高橋(和)氏キーワード 「発」

すでに土台がある地区なので今後、ますます発展して欲しいと願っている。自発的に魅力を発見し、それを発揮するために発信していきたいと考えている。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

院内地区は秋田県でも最も南の山間部に位置する集落であり、平地は限られ、雪深く、暮らしていくには必ずしも条件が良いとは言えない。かつて江戸時代には、藩境関が置かれ交通の要所であったこと、銀山や碎石場等の天然資源に恵まれたことから、人口も多く、活況を呈したが、現在は人口減少と高齢化には歯止めがかかっていない。

そのような歴史的な背景もあり、10年ほど前からは地域のお宝を見直し、地域の活性化に取り組む動きが、まさに住民主体の有志グループで始まり、さらにこの数年には20代から40代の若者を中心とした新たなグループがSNS等を活用しながら地域内外を巻き込んだ新しいお祭りや除雪等の共助の仕組みをスタートさせている。

今回のワークショップは、そのような動きの中で改めて地域づくり活動を人口減少や高齢化という観点から位置づけしなおしてみようというきっかけになればと開催された。ワークショップ（1回目）では、人口の転入転出の動きの特徴として、20代の進学や就職に加えて、世帯を構える30代においても「地区外に自宅を建てる」という理由での転出が確認された。これは、山間地にあり平地が限られる院内地区ならではの課題であることが明らかとなった。また、60代以降の人口減少についても自然減に加えて「子どものところへ身を寄せる」という流出が拍車をかけていることも明らかとなった。

そのような状況を踏まえて、ワークショップに参加した住民からは「人口減少に歯止めをかけるというよりは、子どもの人数を安定化させる」という目標が多数を占めた。

ワークショップ（2回目）では、その目標に向けて必要な仕組みや仕掛けについて話し合ったが、前述の若者グループの活発な活動だけでなく、温泉施設やカフェ等の民間施設も取り込んで、営利的な活動を含めた若者向けの幅広いアクションが提案された。さらに、住宅が限られるという課題に対しても、空き家を積極的に活用していこうという方向性が確認された。

さらには、これらの活動を「院内地域づくり協議会」に集約させ、そこから自治会にも波及させながら、院内全体を巻き込んだ活動に波及させていこうという意見が若者からも挙げられた。

これまでの議論を聞いていて、院内住民の自治的な組織（子供会や自治会等）、企業、農林水産グループ、地域づくりの有志グループ等それぞれの活動がまだまだ底力を持っており、それぞれが自律的に活動しながら、それぞれが互いに折々で協力し合って全体としてどこかで緩やかにつながっていくような地域のあり方のイメージが、若手から先輩世代

まで共有されていることが実感された。そのためには、地域を象徴する建物である旧院内尋常高等小学校、現在の院内地区センターを拠点としながら「院内地域づくり協議会」が有機的な接着剤として機能していくことが、一層の発展のカギとなる。